

## 産学連携実績紹介フォーム

### 1. 講座の計画から実施までの情報

教育機関名 (学校名・学部学科等)	関東学院大学工学部	実施時期	2013 年度 前期 : <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/>
対象学年・学期・人数	1 年次～4 年次・78 名		
講座名	総合コースⅡ -IT業界について-		
連携企業・団体	一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会		
支援・連携の類型	連携団体の作成テキストとハンドブックにより講座を実施(講師派遣型)		
講座の概要・特徴	<p>SEの仕事について講師の経験を踏まえて解説し、理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして視野に捉えて考察する場を提供する。</p> <p>講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使った授業でSEの仕事に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話を受講生に紹介することで、業界の現状を正しく伝える。</p>		
産学連携検討の背景	<p>関東学院大学キャリアセンターを介して神奈川県情報サービス産業協会と学生のキャリア活動に関連する様々な連携をとるようになった。その後、産学連携活動の一つとして協会から講座として提供していただけるということになり、本講座を開講するに至った。</p>		
連携の狙い、目的・目標	<p>工学部に設置した科目ではあるが文系の他学部の学生も受講可能であり、多くの学生にIT業界における技術者としての仕事が如何なるものかを認知し、IT業界の社会的役割を理解することを目標とする。また、将来の展望についても考える機会とする。</p>		
連携にあたっての課題・懸念	<p>IT業界で活躍している人たちは様々な学習経歴をもっていると聞いているが、本学では特定の学科の学生は受講しているが、工学部他学科、他学部にはあまり周知されておらず、関心のある多くの学生に受講させることが必要である。</p>		
講座の位置づけ 既存講座との関係	<p>各学部個別にキャリア支援科目が設置されているが、それらの習得を踏まえたうえで特にIT業界への就職に関心のある学生に受講させる科目である。</p>		

履修前提条件	特になし。1年から4年まで履修可能であり、初年時においては学部における学習意欲の高揚のため、高学年次においては間近になった就職活動のため、それぞれの学年に応じて異なる意義がある。
授業準備と実施の体制	第1回は協会の講師と大学側担当者が授業内容などについてガイダンスし、第2回から第14回までは協会の講師の先生に担当していただく。また、出席管理や資料配布、講義の準備など各回に学生の授業補助のアルバイト(SE)を配当している。
成績評価の方法	原則としてすべての講義を受けることとし、各回のアンケート調査に基づき理解の程度によって評価する。また、これらに加えて最終的な課題として、本講座を受講する前後の考え方の違いについてというテーマで作成したレポートにより評価する。

講座の構成(シラバス)	単元と時間配分 (1コマ=90分で実施)	演習・実習	実施担当・役割分担
	1. ガイダンス(1コマ) 本講義の概要と位置づけについて述べる	講義のみ	講師
	2. SEとは(1コマ) システム開発、SEの定義、IT業界の現状など	講義のみ	講師
	3. SEのマネジメントスキル(1コマ) SEのマネジメントスキル、SEの作業など	講義のみ	講師
	4. 情報システムの企画と提案(1コマ) 情報システムの企画、情報システムの提案プロセスなど	講義のみ	講師
	5. システム設計の概要(1コマ) 開発方法論、システム設計技法、システム設計の課題など	講義のみ	講師
	6. システムテストと運用テストの意義(1コマ) ソフトウェアの品質、ソフトウェア開発プロセス、システム運用テストなど	講義のみ	講師
	7. 情報サービス産業界の現状(1コマ) 情報サービス産業界における最近の話題を講演して頂く	講義のみ	講師
	8. データベースの知識(1コマ) データモデル、関係代数操作、正規化、DBMS、データベース言語など	講義のみ	講師
	9. ネットワークの知識(1コマ) TCP/IP、インターネット、ネットワークトポロジー、無線LAN、セキュリティ、暗号化など	講義のみ	講師

10. 情報セキュリティと個人情報保護(1コマ) セキュリティ今と昔、ウイルス対策、メールにおける対策、個人情報とは、個人情報保護するためには	講義のみ	講師
11. プロジェクトマネジメント(1コマ) プロジェクトマネジメントの意義、定量化について、各種管理について、問題解決の技法など	講義のみ	講師
12. SEのベーススキルと関連知識(1コマ) SEのベーススキル、問題解決、コミュニケーション、プレゼンテーションなど	講義のみ	講師
13. システム化事例紹介(1コマ) 私たちの生活を支える情報システム、ICT産業界の人材像、プロを目指す学生諸君へのアドバイスなど	講義のみ	講師
14. これまでの授業の復習と今後の展望(1コマ) 本講座について、IT業界、「SE」という職種、「SE」の仕事の事例など	講義のみ	講師
15. 総括(1コマ) 講義全般の理解度を確認するための最終的なテストを行い本講義全般を総括する	講義のみ	大学担当者

演習・実習の内容 必要なマシン環境等	演習・実習なし
-----------------------	---------

## 2. 講座実施後の情報

受講者の声（受講目的、修得目標）	情報系学科で学び将来、IT業界で仕事をすることを目標としている学生を対象とし、近年のIT業界の現状を理解することを目標とする。
受講者の感想（本講座で得られたもの）	受講者の感想は様々であるが、概して、受講前はSEという職種は個人的な技術で成り立っていると考えられている傾向にある。しかし、コミュニケーションが重要で、十分なコミュニケーションが無いと仕事にならないということを理解しているようである。
先生の評価	大学の学内の教職員は企業での経験が豊富な教員が少ないため、社会における経験豊富な講師からの話を聞くことは、大事なことである。しかもホットなタイムリーな最近の話題が聞けるため非常に有用であると考ええる。
企業・団体による評価	<p>※支援企業・団体の立場から、良かった点／改善を要する点／課題などを記す。</p> <p>講義で学んだ個別の概念や技術が実務の世界でどのように使われているか、各企業や講師の体験をベースにした事例を通して学ぶことに、受講生の多くは価値を見出しているといえる。「毎回、異なった企業の異なった講師が担当する。」という、神情協 SE 講座ポリシーは妥当なものであると考えられる。学生は全体に大人しく、おおむね真面目な授業態度で取り組んでいた。担当の先生からは、来年度も同様に依頼したい旨の依頼があった。</p>
今後の展望（継続に向けた課題）	今後も、学部を問わずIT業界に携わる人材が必要になってくることが予想されるので、この科目については幅広く多くの学生に受講させることが必要だと考える。

## 3. 支援企業・団体からの情報(神情協記入事項)

提供教材・コンテンツ情報	講座名称 : 大学向けSE講座 講義形式 : SE講座講師が独自に作成した教材を元にPPTで講義を行う。		
提供元	神奈川県情報サービス産業協会 (会員企業の認定講師)	費用 (標準価格)	①講座費用(別途調整) ②テキスト有償(SEハンドブック)
支援の目的・目標	SEの業務について講師の経験を踏まえて解説し、仕事内容に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話により、業界の現状と業界が求める人物像を受講生に伝える。 理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして考察いただき、受講生の多くがIT業界に進路を選択をする事を目標とする。		
具体的な支援内容または提供教材の内容	講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使用し講義を行う。 注記:SEハンドブックの詳細は別紙添付。		
講座実施における企業・団体の役割	下記の14回の講座を団体が提供し、各回の講師は会員企業より認定されたSE講座講師が実施する。 講義 : 01(ガイダンス) 講義 : 02(SEとは) 講義 : 03(SEのマネジメントスキル) 講義 : 04(情報システムの企画と提案) 講義 : 05(システム設計の概要) 講義 : 06(システムテストと運用テストの意義) 講義 : 07(情報サービス産業界の現状) 講義 : 08(データベースの知識) 講義 : 09(ネットワークの知識) 講義 : 10(情報セキュリティと個人情報保護) 講義 : 11(プロジェクトマネジメント) 講義 : 12(SEのベーススキルと関連知識) 講義 : 13(特別講義、システム化事例紹介) 講義 : 14(授業全般の総括とまとめ)		
企業・団体からの推薦コメント	神情協会員企業の中からSE講座講師審査会で資格認定された講師が各回の講義を行う。 講義は、毎回違う講師(企業)がご自身の経験や実績を踏まえて講義を行うため13名(複数企業)の講師の講義を受ける事となる。		

	<p>講師企業には、メーカー系、ユーザー系、独立系等の企業があり、企業規模も大企業から、中小企業さらにはベンチャー企業まで幅広い講師（企業）が担当することとなり、受講生にIT業界の多くの可能性を紹介する。</p> <p><b>この授業には利用者側の教員も参加頂き、教育に積極的に関与して頂く。</b></p>
--	--